

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200565		
法人名	株式会社ビジュアルビジョン		
事業所名	けあビジョンホーム加古川		
所在地	兵庫県加古川市志方町志方町1061-5		
自己評価作成日	令和元年11月18日	評価結果市町村受理日	令和1年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和元年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、ホームで生活する中で、退屈しないように毎日レクリエーションを行っています。また、毎月誕生日会を行ったり、志方公民館にて行われる、あさがおカフェ(認知症カフェ)に参加しています。その他、地域の保育園やボランティアと交流し、定期的に行事を開催しています。毎月、季節に応じた壁紙を利用者と職員が一緒に作っています。近所の職員が多く、休みの日でも気軽に来られます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・運営推進会議には、家族代表、市や地域包括職員、民生委員等参加し、行政協働や地域情報等得る機会ともなっている。
【工夫点】・職員は施設近所の方が殆どであり、地域情報活用や料理上手の方を上手く活用している。・料理メニューは基本夜勤者が交代で作成し、事後検討し手作りメニューの食事提供としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼・中礼で会社の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた「誓い」という理念の唱和をし、スタッフ全員が理念を実践につなげている	法人理念や地域密着型サービスの意義をふまえた「ビジョンと誓い」を管理者と職員は朝礼、中礼で唱和共有を図り、最近は、「笑顔の大切さ」を意図している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や月1回志方公民館で開催される認知症カフェに参加し、地域との交流を図っている	職員の殆どが、事業所の近所の方達であり、地元特性や様々な地域情報を得て利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法についての勉強会等を計画中。情報を集めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、施設の取り組み状況等を発表し、地域の方の意見を聞き、サービスの向上(事故を減らす、ヒヤリハットを増やす等)を図っている	利用者及び家族代表、市及び地域包括担当、民生委員、地域住民代表等参加のもと、定期報告後、身体拘束等適正化委員会開催状況報告、事故・ヒヤリハット、評価の取組み等報告後、意見交換を実施し、意見等サービス向上を図っている。	7月会議で家族代表より、職員名札の装備要請が出ているが、現段階実施に至っていない。工夫検討を推進し、家族要望の速やかな対応が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や地域包括センターに出向いた際にホームの現状を伝えていく	運営推進会議には前回及び今回も市、地域包括担当が参加されており、事業所現状やサービス取組みを理解頂き協力関係を築く取組を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	弊社では身体拘束は禁止されており、職員全員が理解している。過去に一部の利用者の単独外出があり、職員全員で会議し、防犯・安全確保の為、家族の理解を得て玄関、フロアの戸の施錠をしている	毎月開催の身体拘束適正化委員会に基づく研修会や勉強会を推進し、管理者及び職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関前は車道でもあり、又過去例もあり日中は玄関ドアは施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回高齢者虐待防止についての勉強会、ビデオ鑑賞等を行っている。今後は、どう役立ったのか、気づいた点等を記録に残す	年1回身体拘束・高齢者虐待に関する研修を計画的に実施し、2ヶ月に1回ユニット会議で高齢者虐待防止のビデオ等活用の勉強会を実施し、防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用している方はいないが、今後のために成年後見人、権利擁護の勉強会を予定している	現状成年後見人制度活用者はいない。また職員研修計画にも権利擁護に関する制度の理解と活用に関する研修の明示がない。	権利擁護に関する制度の資料等地域社会福祉協議会等で資料入手を図り、全職員の学ぶ機会と個々の必要性と活用できる体制整備が望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、説明を行い理解・納得を図っている。改定等の際は文書を送付し理解を得た上でサイン・印鑑をいただいている	契約等に関する説明は、利用者、家族等の関心事を伺い、入院時の居室確保や開設後数名体験の看取り時の対応十分な時間をとり理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見、要望がある際はその都度聞き、運営に反映させている。また、玄関に意見箱を設置し、意見、要望を書いていただいている。運営推進会議で発信している	運営推進会議参加の家族や玄関に意見箱設置や訪問時意見を伺う機会を有している。	今回当方実施のアンケート実施で家族より具体的な改善要望指摘は数件あり。顧客満足の姿勢を基に謙虚に受け止め早期具体化への改善行動が望まれる。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンスとミーティングを行っている。また、個別に話を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティングや個別面談で職員意見や提案を聞く機会を設け、人間関係やシフト変更等の提案等反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいについて、「夢会議」という会議でパートの給与等の要望を本社に提出している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回社員研修を行っている。パートには社員から研修での取り組みを伝えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内(全国各地のケアビジョンホーム等)の交流する機会、サービスの質を向上させていく取り組みはしているが、他施設との交流はできていない		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込時、契約時等に本人が困っていること、不安なこと、要望等を聞き、関係づくりに努めている。入居後、ケアプラン1表で面談し、本人の希望を尊重し安心して暮らして頂くように心掛けている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時、契約時等に家族等が困っていること、不安なこと、要望等を聞き、関係づくりに努めている。入居後、ケアプラン1表で面談し、本人の希望を尊重し安心して暮らして頂くように心掛けている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時、契約時等に本人と家族等から話を聞き、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。入居後、ケアプラン1表で面談し、本人の希望を尊重し安心して暮らしていただくように心掛けている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気での生活を大切にしている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できている。行事、また、病院受診時等にもできるだけ家族にも来ていただき共に本人を支えている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方が訪れて来られたり手紙をもらったりしている。ドライブや買い物等に出掛けている	本人が培ってきた人間関係を大切にしている。地域に暮らす馴染みの知人や友人が今までの生活の延長であるよう事業所に訪れている。これらに対し継続的となるよう支援に努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士近くの座席にして会話を楽しんだり、食事以外の時でもソファーに座り談笑されている。レクリエーションにも参加していただいている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、必要に応じて本人・家族に連絡し相談や支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	欲しい物、必要な物がある場合は利用者と職員と一緒に、あるいは、職員が買い物に行っている。電話を希望された時は電話するようにしている	日々の関わりの中で声を掛け、言葉や表情などからその真意を推し測り一人ひとりの暮らしの希望や意向の把握に努めている。職員は本人の思いや意向に関心を払い、日常品の補充や菓子類を一緒に買いに出るなど本人本位で検討している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその方の生活歴を聞き、どのような暮らしをしてこられたか把握に努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの力を把握し、その方のできる事をできるだけ行っていただくようにしている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、職員間で話し合い、情報共有するようにしている	本人がよりよく暮らすためにケアのあり方を本人や関係者と意見交換をして月1回開催のケアカンファレンスで現状に即した介護計画を検討している。食事形態や機能回復のモニタリングを通し、「おいしく口から食べる」等を職員課題として取組んでいる	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月ケアカンファレンスとミーティングを行い、情報共有するようにしている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、そのニーズにこたえて支援できるようにしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやカフェに参加し、地域とのつながりを大事にしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通っていた病院に家族と通院するか、当ホームの指定医の往診か、契約時にかかりつけ医を選べる	本人の馴染みのかかりつけ医による継続的な医療が受けられ、本人や家族の希望に応じた対応をしている。月1～2回往診医の診察を受け24時間医師に相談でき体制が整備されている。家族が遠方で通院不可能な時は相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、職場内の看護師や往診の看護師に日常の様子を報告し相談し、利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護サマリーを活用している。また、退院時には退院前カンファレンスに参加し、情報収集している	入院時は看護師からの情報提供書を病院に提供している。入院中はケアマネジャーが面会し退院に向けてのカンファレンスにも参加している。食事形態や医療処置の有無、移動の状況など地域連携室を通し病院関係者と密に連携し当施設での対応について確認して速やかな退院支援に結び付けている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を活用している。看取り時期には医師に加え、訪問看護師を利用し、チーム共有し支援している	契約時には看取り指針をもとに事業所が対応し得る最大のケアについて説明し、同意を得ている。本人、家族の意向を踏まえ、話し合いを繰り返して医師、職員が連携をとり安心して納得のいく看取りに取り組んでいる。職員、全利用者でお見送り等のチーム支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できていない。今後の防災訓練で実施していく		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で実施している。今後は車椅子の方を想定した避難訓練も実施する。災害備蓄品の準備・点検も行っていく	運営規程明記の非常災害対策に基づく昼夜間想定災害避難訓練を年2回消防署立会で実施している。備蓄としての準備は現状ない。	・車イス利用者2ユニット計5名の避難誘導等地域との協力支援への工夫推進が期待される・日常食料等と非常用備蓄区分を明確にした保存管理が望まれる。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけを大切にしている。利用者には～さんと呼んでいる	援助が必要な時でもまずは本人の気持ちを大切に考えさりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。年長者として敬意を払い、馴れ合いの中でも職員の言葉かけ等本人の尊厳を無視していないか確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切にしている。利用者を選択していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でなく、利用者様の希望を確認し、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問理容の方に来ていただき		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った準備や後片付け、食器洗い、食器拭き等を職員と一緒にしている。食材は基本コープで注文している	その日のメニューは前日の夜勤者が考えすべて手作りしており、「おいしい」と好評。旬の食材を取り入れ食事への関心を高める工夫に取り組む。個々の力に合わせ食器洗い、トレイ片づけ等行っている。敬老会や月1回誕生日会も楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、その人の栄養状態を確保し、一人一人の生活習慣を大事にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。できるところはやっていただき、後職員が確認や介助をしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに自分で行かれる方で、トイレの仕方がわからない時は言葉で伝え、できるだけ自分で行っていただいている	一人ひとりのサインを職員全員が把握し、あからさまな誘導ではなく、さりげない支援をしている。自尊心に配慮し、利用者の様子から察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたりする等の歩行介助をして、日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師とも連携し、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決めているが、本人の希望を聞き、入浴していただいている。入浴拒否や体調不良等で入浴できない時は曜日を入れ替えている	週2回その日の利用者の希望、体調に合わせた入浴支援をしている。入浴を拒む方には、言葉かけ等対応を工夫したり、次の日に変更する等柔軟に対応している。その内容は申し送りです必ず報告し、個々に添った入浴支援を試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大事にしている。体力等も考え、適宜、休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解していない職員もいると思うので今後勉強会をする。利用者については聞かれれば答えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力を親てできることを職員と一緒に行っていただいている。その人の特異なレクリエーション等に希望を聴き参加していただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、ドライブ等に不定期であるが実施している。天気の良い日には(職員の人数に余裕がある時は)散歩に出掛けている。認知症カフェや志方小学校運動会参加時は家族の協力も得られた	月1回外出は4~5名で職員2名体制で支援。ドライブに秋にはコスモス見学に出かけている。短時間でも屋外に出る時間を持つために気候の良い時には事業所の周辺を散歩に出かけたり、日常品の買い物など職員と数名で出かけている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理し、必要な時は利用者と職員と一緒に、あるいは、職員が買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本職員が家族等に電話をしている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。花や季節に応じた掲示物を置いている	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、利用者との手作りの生活感や季節感のある作品等飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで自由に過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。家族の方も本人の好みものを持って来られたりしている	居室は、備え付けのキャビネットと洗面設備以外は本人や家族と相談、使い馴れた備品、仏壇、思い出の写真等を活かし、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物を貼り工夫している		